伴田良輔　×　吉永桃子

トークセッション

2月6日（金）午後7時～9時
（開場：午後6時半～）

身体と空間の話

ダヴィンチ、コルビュジェ、禅
連続体の中の身体

会場：階段スタジオ（千代田区神保町）

美術家　映画監督

身体の動きの探求者

〈神保町×階段〉から始まった不思議な事象

2025年11月、私、吉永桃子のスタジオを神保町に移転しました

ガラス張りのモダンな建物の中にある階段は
正三角形の並びが強く美しい幾何学体

不思議なことに移転したその日からとめどなく
素敵なご縁や出来事が生まれ続けています

そんな中、今度は伴田監督が来てくださり
階段を愛でながら一緒に何かしましょうと
言ってくださったことが今回の始まりです

「空間の連続体とは何か」

ダヴィンチやコルビュジェが人間の身体を
幾何学的に捉えようとしてできなかった、という仮定の元
伴田良輔が「連続体論」についてここで初めて語ります

その後、身体の壊れ方・治し方をテーマに
人の身体のなかにある根源的な生成力を
発揮する動きの探求をしている私、吉永桃子に
伴田監督が一体、何をご質問されるのか

そこでどんなセッションが巻き起こるのか
無謀にもこんな難解な世界に身を委ねてみようと思います

私の喜びとしてはこのような
表層的な美しさや技術の高さなどではない
”根源的な力としてある芸術の世界”に触れるきっかけを
私の生徒さんやファンの方に提供できる機会が
このような形で作れたことが大変な喜びです

この際、理屈は必要ありません
自分の許容を飛躍する何かと出会ったら
現状を超える未来が訪れるでしょう
世界はきっと、そんなに小さくありませんから

足を運べる方はぜひ、この〈階段スタジオ〉へ
この日だけの特別な空間がさらなる飛躍を呼び込むでしょう
真剣に出合いたい人のために配信も行います
ご質問やお便りも大歓迎です

伴田良輔 × 吉永桃子
トークセッション

お申し込みはこちら
https://ssl.form-mailer.jp/fms/770e2817873321

参加費（税込）　会場：4,000円　配信：2,000円

【会場枠がすでに満席となっていた場合】
「お名前」「トークセッション」「キャンセル待ち希望」の旨を記載の上、
こちらのメールにご返信ください。キャンセル待ちとして受付いたします。

〈プロフィール〉
伴田良輔

20代より写真評論、美術批評、小説、絵本など幅広い分野で著作を発表。「芸術新潮」（新潮社）、「ブルータス」（マガジンハウス）などにコラムを連載。著書に『奇妙な本棚』（ちくま文庫）、『絶景の幾何学』（ポーラ文化研究所）などがある。パズル研究家として『巨匠の傑作パズル ベスト100』（文春新書）、『サム・ロイドの考えるパズル』（青山出版社）、翻訳書に『ダーシェンカ 小犬の生活』（新潮文庫）など。猫好きとしても知られ、『ピカビアーノさんの玉尻猫』（文藝春秋）、「猫語練習帳」（朝日出版社）『猫のいる宿』（日本出版社）などの著書がある。美術家としては「有月（うげつ）」名義で活動し、独自技法による版画作品や大型の屏風・襖絵などを国内外で発表。フィラデルフィア国際写真版画展、クラコウ国際版画ビエンナーレ（ポーランド）などで受賞。

映画監督として人形アニメーション『PECHIKA』（2004、ジャン・ピエール・テンシンとの共同監督）、短編『アリスマトニカ』（2011）、長編第1作『森へ island』（2022、文化庁AFF助成作品）、長編第2作『道 パッサカリア』（2023、文化庁AFF助成作品）があり、この２作によって海外映画誌「FILMMAKERLIFE」が “2024年トップクリエイター”の一人に選出、カヴァーインタビューが掲載された（写真下）。『森へ island』はルイス・ブニュエル記念映画賞最優秀長編作品賞、同監督賞、『道 パッサカリア」はヨーロピアンシネマトグラフィ映画賞など、そのアート性が海外映画祭で高く評価された。ここ数年は長編と並行して短編映画作品にも取り組み『Empty Chair』（2023)、『弱法師』（2024)、『Butterfly』（2024)などがある。現在最新作「赤い自転車」制作中。

伴田良輔 映画ウェブサイト：https://www.ryosukehanda.com/
有月 アートウェブサイト：https://neugetsuart007.jimdofree.com/

吉永桃子

https://www.enmusuhi.com/philosophy
(弊社ウェブサイトに飛びます)

Copyright © 2026 enMUSUHI Co.Ltd. All rights reserved.